

テーマ	1) そのテーマであなたが実際に感じている課題や可能性は？ (その背景や理由もぜひ)	2) その課題や可能性に対して、どんな取り組みがあったらよいと思いますか？(自分や誰かと一緒にできそうなこと)
山・川・里山・農林業	・神山町の基幹産業は農林業である。農林業をきちんと位置付け、将来につなげていく方策を今やらなければ未来はない。今をつなげなければ、未来につながっていかない。 ・既存の農業従事者同士、また神山で農業をやりたいと思っている人とをどうつないでいくか→つなぐ組織を立ち上げたらどうか（今のままでは、農業をやめる人、耕作放棄地がどんどん増えていく）	・既存の農業従事者同士、また農業従事者と農業をやりたいと思っている人で、農業生産法人を立ち上げることにより、経費の軽減や労働力のシェア… ・耕作放棄地を農業体験の農場として、町内外（特に都会）から参加者を募集し、親子などで体験していただく場・機会とする。運営団体は、NPOなど民間で。 ・市民農園の開設。神山でも農地を持っていない人がいる。野菜など新鮮で安全なものを求める人がいる。そんな人対象で、耕作放棄地を活用する（先生は土地所有者など） ・それぞれ参加費徴収。売り上げを土地所有者などに還元していく
	・豊かな自然資本がある街は、その資源に魅力を感じて人が自然と集まり仕事をつくっている。神山でもそういう動きが将来起こるといいなと思うと、今から準備することが大切であると感じるから。 ・とにもかくにも林業従事者の不在の問題が大きい	- 多角的な取り組み？たくさんの小さいことをやってみる ・森林所有者への情報発信 ・すぐ切れる場所の伐採（河川付近／国道付近）（目につきやすい） ・小さいことの積み重ね（薪ストーブの推進、各家庭が山に関心を） ・小学校跡地を木材ストック置き場に ・誰でも切れる共有林の解放→若い世代は山への関心高い。切れる人も増えている？グループ作れるのか？
	・獣害被害の対策→森林の整備→山師（林業）育成）→山・森・技術継承 →猟師育成→加工施設 ・担い手（若手）はいるので、チームづくり（モノや道具をシェアする仲間）と地元の人とのマッチング（手入れしてほしい山、猟の技術、手入れしてほしい農地、猟や農業の道具）	チームづくりと地元の人のマッチングの場づくり。「神山みんなの食堂」でやりたい。 地域コーディネーターがボランティアでなく成り立つ仕組み。 食+場づくり=何十倍
	職業の人とやりたい人のマッチングができていない。今後の農林業の危険（年齢）→次につなげたい 林業の良さがわからない→危険・リスクが多い 山の木を切る機会があったらいいな～ 農林業の人は後継についてどう思っているのか？お金以外でやりたいと思える方法はないのか？補助金についてもっと詳しく知りたい。神山の林業企業、大工企業はどのくらいある？ 木をなるべく使って、家を建てたり、雨宿り場をつくりたい。	アプリをつくる。どの木・土地を使っていいのかわかる。サークルをつくる。高校、中学校、小学校などの机を木にする。木で家（小屋）をつくってみたい。アスレチックを作る。川遊び道具を作る。

	農林業の担い手不足、マッチングができていない。智頭町の協働組合のような組織があるといいな。 川の水の現象、針葉樹から広葉樹へ切り替えていきたいが、木を売っても赤字では、山主さんも動かない	薪や建材を利用したい人たちが集まって山を整備する。山主さんは山がきれいになり、手伝いの人は資源が手に入る関係性。山資源を有効活用できれば。
交流・継承・文化活動	自分：神山の昔の食べ物の話を聞きたい。(神山の色々な地区で)昔の話をしたいという方はたくさんいるらしい…。 年配の方：こういうやりたいことある人とできる人をつなぐものが欲しい(きっかけ)	・マッチングできるもの、お茶をしながら出会うきっかけになる場をつくれたらいいな。 ・おばあちゃん、おじいちゃん図鑑みたいなもの→課題研究でつくろうかな
	交流をしたくても、きっかけがない 話をしたい高齢者・話を聞きたい若者はたくさんいるのに、マッチングする機会がない	話し合いの中で上記のような人たちのマッチング制度をどこかでできたらよいという意見が出て、面白いと思った。社協でやっているてんこもりに近いイメージ。
	城西・高専の子どもたちの長期休みのときに、町内のじいちゃんばあちゃん(一人暮らしの方をメインに)の家にショートステイ(2週間ぐらい)できるマッチング・斡旋できるシステムづくり。 移動(車、自転車)の問題はあるけども。	滞在先、さみしさ解消、新しい交流、祭りへの参加、すだち収穫サポート等、さまざまなメリットがあるのでは？
	・広野地区は石井町に近く、神山町のイベントや交流の場がない。交流の場があってもいいと思う。 ・仕事をするならコンプレックスがあるが、基本はオフィス。神山だからこそ、川・山・森がある環境で仕事をするなども欲しい ・高校生と年配の方との交流の場	・山、川野周辺に、憩いの場・集まれる場をつくる ・年齢関係なく話し合える、語り合える場づくり ・きっかけづくり
	人形浄瑠璃に参加する人数(ジュニア・中高生)が減っている	交流する機会。どんな活動なのかを知る場を作る
	昔の神山を知る機会があまりない。おばあちゃん、おじいちゃん世代の話を聞いてみたい。 今は寮で関わってくれる人とよく交流する。それ以外の人とも交流してみたい。	町にベンチを置くプロジェクト 神山のおじいちゃんおばあちゃんホームステイプロジェクト 神山全体のでかい祭りやりたい
住まい	・すぐ住める空き家がない ・単身者用の住宅不足 ・すだち収穫用ワーホリシェアハウス	不動産免許を持つ事業者が自前で空き家を改修して、すぐ住める状態で、多様な賃貸住宅を供給する(サブリース)
	住まいがなく、移住できない人、町外から通勤している人がたくさんいらっしゃる一方で、管理されなくなっている空き家は増加している	上記をマッチングさせる取り組み。 すみはじめ住宅を増やす。

	・移住者はどこに住めるか不安に感じる ・シェアハウスはちょうどいい→流入したてはとても良い ・借家にお金をかけるのは難しい。住みたい空き家がない→賃貸の文化がない。実家を貸すメリット少ない ・改修に関して相談したい。不安。(しなければ良い家がベター) ・雇用されて住居がすぐに必要な人と、高齢者でケアホームなどに入り空き家になる人との間にギャップがある。機会損失になっている。ここがつながれば。誰がする？資金はどうするか？	・仏壇がある、すぐに住めない、GVに持ち込まれない→苦勞している→市内・石井に一時定住
	・高齢者の新しい選択肢としての住まい ・安心して町内で生活することができると、地元の人の住み替えも可能性があるのでは？	・住みやすい高齢者向け集合住宅 ・見守りとして若者のシェアハウス
	住めない空き家が多いこと。丁寧に手をかけなければ（整備しなければ）ならない家が多いが、町に新しく住む人はすぐ住める家を求めていることが多い。山水がうまくまわっていないのも課題。	・そもそも家に合っている人のみを受け入れるスタンス ・西分の家のような物件を増やす すみません、自分で取り組めることが思いつきませんでした
仕事と観光	「町の持続」を考えると、仕事を増やす、人を増やす、家を増やす…何かを補うために全てを補わなければならない。当たり前だけど。	農体験（援農）をすることで、労働力も得られ、耕作放棄地が復活？関係人口ができて、移住者への可能性も。滞在場所が必要。廃校・休校の活用とか。 ※ツアーを通じて、この環境をつくれなか！？
	・人を通して、ヒト・モノ・コトと出会い、神山の魅力に近づいていく…とはいえ、それだとハードルが高い。神山に知り合いがいないと難しい。どんな窓口があるとよいのだろう？窓口ではなく場があると、外の人と内の人が出会う？呑みの場があるとよいのかな？	キーパーソンや面白い人が集まっている喫茶店がある町ってけっこうあるよな。寄井の商店街に、高齢者も気軽に入れる社交場的なレトロな喫茶店とかできないかな？
	観光を”業”として地域へ案内したり、地域産品に価値づけすることがあまりうまくいっていない。もしくは、そういった役割が仕事化されていないのではないかと課題を持っています。例えば、すだちのピークは誰でも忙しく、手間が足りていないので、神山ですだちの旬を感じることができるときの機会は開かれていない。	神山で生まれたものを外に持っていく。人を呼んでくる。公益性の高い営業スタッフを仕事化していく。モノや技能を事業化させていく案内人を作っていくのはどうか。
子育て・学び	広野小学校の児童数が少ない 神山で住みたい人はいるが家がない 3校交流の場がもっとあればいいと思う。バス利用で放課後関わる時間が少ないと感じるし、授業での関わりより、放課後の関わりが増えたらいいと思う。 コモン利用がもっと増えるといいなと感じた。広野や上分からは遠くて行きにくい。けど、何箇所もコモンみたいところを作ると、学校みたいに、エリアで分かれてしまう気がする。	住宅開発公社みたいなものができて、住まいづくりができれば良い まず、それぞれの学校の先生や保護者が、半日、一日過ごしてみ、各校のことを知ることができたらいいのかな、と思います。

	広野の立地。保育所、小学校はあるのに、住宅ないので人増えず、いつまで維持できるのか。もったいないし、なくなるのはつらい。教育・子育て・住宅・仕事、いろいろ繋がっている。仕事・家があれば人が来る？交流の場（みんなのひろば、ほんのひろば、公民館等）の積極的な活用・維持・周知の必要性	学校間の交流、放課後に交流できる機会を増やす。スクールバスやレッツの乗り合わせてコモン往復の機会をつくる。住宅を増やす。
支え合う地域	人口減少、高齢化で、地域の行事（草刈り、清掃、水路、畑の石積みなど）が難しくなっている。少し若い世代にしわ寄せもある。家族の世代交代ができていない（できない）なら、外部から若い世代を入れないと、支え合えないだろう。	
	地域で支え合う以前に、交流・関わりがうすい。自分が暮らす集落・地区の5年後・10年後を思うと、全くもって明るい未来が見えない。人がいなくなる、田畑が荒れる、家が廃れる。可能性は全く見えない…。	どうしたらいいんでしょう…。話してもなかなか可能性を見出せません。
	高齢化や人口減少が進む現在、地域内の特定人物に負担が集中したり、誰とも協力できなくて失われていくものがある。地域単位で協働することで負担の分散や継承しやすくなるのでは	